

名古屋市教育委員会定例会

令和 5 年 7 月 21 日

午後 3 時 00 分

名古屋市役所西 12 C 会議室

議 事

日程 1 令和 6 年度使用教科用図書の採択及び採択審議について

日程 2 名古屋市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則案について（第 6 号議案）

日程 3 事務局人事について（第 7 号議案）

出席者

坪 田 知 広 教育長

中 谷 素 之 委 員

栗 生 万 琴 委 員

山 本 久 美 委 員

教育次長始め、事務局員 18 名 ※傍聴者 49 名

（坪田教育長）

それではただいまから教育委員会定例会を開催いたします。本日は多数の傍聴申し込みが見込まれたため拡大して受け入れておりますのでご理解のほど、よろしくお願いいたします。

それでは議事運営についてお諮りいたします。日程第 2 第 6 号議案「名古屋市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則案について」、日程第 3 第 7 号議案「事務局人事についてについて」は、内容が関連しておりますので 2 件を一括議題し、本件につきましては、名古屋市教育委員会会議規則第 6 第 1 項第 1 号、職員の人事に関することに該当するため、非公開にて審議したいと思います。

また、会議録につきましても日程第 2 及び第 3 については非公開としたいと思いますがいかがでしょうか。

（各委員）

異議なし。

（坪田教育長）

ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

次に、傍聴の方も含めここにおられる皆さんにお願いいたしますが、日程第1「令和6年度使用教科用図書の採択及び採択審議について」に関しましては、県の指導により、採択結果は8月31日まで非公開となっております。また採択等に関わる会議録資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知りえた内容につきましては、ご配慮いただきますようお願いいたします。

またこの会議開催前に、本日ご参加の教育委員の皆様に対しまして、教科用図書採択に直接利害関係がないことを確認しました。

これより、日程第1「令和6年度使用教科用図書の採択及び採択審議について」を議題といたします。本日は、令和6年度に使用する中学校用及び小学校用の採択を行います。また小学校用のうち、国語・書写・社会・地図・道徳の採択審議を行います。

では初めに、中学校用教科用図書の採択を行いますので事務局の説明をお願いします。

(小島指導室長)

中学校用の教科用図書につきまして、説明をさせていただきます。

お手元の赤色のファイルの中の資料1、令和6年度使用教科用図書採択基本方針をご覧ください。これは4月の定例会でお認めいただいたものでございます。

1(2)にありますように、中学校用の教科用図書につきましては、採択基本方針として、令和5年度の同一のものを採択するとございます。これを踏まえまして、同じ赤ファイルの中の資料2、令和6年度使用中学校用教科用図書一覧表を、案としてお示しをさせていただきましたので、ご審議賜りますようお願いいたします。

なお、文部科学省より送付された令和6年度使用教科書目録には、現在、名古屋市が使用しているすべてのものが掲載されており、令和6年度の供給に支障がないことを申し添えさせていただきます。説明は以上でございます。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、中等学校用教科用図書につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

(坪田教育長)

中学校に関しましては、よろしゅうございますか。

はい。特に、ご意見もないようですので、令和6年度使用中学校用教科用図書につきましては、4月定例会で決定した採択基本方針のとおり、今年度使用している発行者のものを引き続き採択することよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

次に小学校教科用図書の国語・書写・社会・地図・道徳の採択を行います。まずこれまでの経過について事務局の説明を求めます。それではお願いします。

(小島指導室長)

もう一度、赤色のファイルの中の資料1をご覧ください。

令和6年度使用教科用図書採択基本方針の1(1)にございますように、小学校用教科用図書は、種目ごとに一種のものを採択するとなっております。

これまでの調査研究につきましては、5月15日から、全小学校に設置された教科用図書調査研究協議会で、学校ごとに行うとともに、5月19日からは、教科用図書調査専門委員会により、教科の専門的な立場で行いました。それぞれの報告が6月中に提出されております。横長の黄色ファイルの資料3-2をご覧ください。

こちらが、各学校における教科用図書調査研究報告書の観点別の傾向をまとめたものでございます。各小学校では、観点、着眼点ごとに、特にすぐれているものに◎を一つ、よいものに○を一つ以上つけて評価をしております。

続きまして、横長の黄色ファイルの資料3-1、教科用図書調査専門委員会報告書をご覧ください。

ここには、学校と同じ観点着眼点で、評価の専門的な立場で調査した内容を記述するとともに、各教科で特に調査を要する事項について調査した結果が記述してございます。

また、6月2日から6月29日まで、鶴舞中央図書館、西図書館、南図書館、天白図書館、港図書館、名古屋市教育センターにて、教科書展示会を開催し、市民の方にもご覧をいただきました。

小学校用回答書に関することにつきましては、364通のご意見をいただきました。

市民の声をまとめたのは、青色のファイルに綴り、皆様の机の上に置かせていただいております。

その他の資料といたしまして、皆様のお手元には教科書目録、国語・書写・社会・地図・道徳の小学校用教科用図書見本本。教育長の机の上には、令和6年度使用小学校教科書編集趣意書の綴り、愛知県選定審議会が作成した選定資料の綴り、名古屋市立小中学校の指導方針を置かせていただきましたので、必要に応じてご覧いただきまして、審議の参考にしていただければと存じます。

説明は以上でございます。

(坪田教育長)

説明が終わりました。小学校用教科用図書の採択の方法についてですが、種目ごとに、事務局から説明を聴取した後、質疑や意見交換を行い、採択という流れでございます。委員の皆様のご意見の一致をもって決定、または状況に応じて無記名投票によることとしたいと思いますがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

ではまず国語の説明をお願いいたします。

(犬飼指導主事)

国語科の教科用図書は東京書籍、教育出版、光村図書の3者から発行されています。資料3-1のファイル、資料3-2のファイル、それぞれ国語科のページをお開きください。各学校の集計結果はご覧のようになっております。私からは、調査専門委員会の調査研究の結果について、

(坪田教育長)

着座して説明されて結構ですのでお願いします。

(犬飼指導主事)

失礼します。

教科用図書をお示ししながらご説明させていただきます。

まず、調査研究の6つの観点についてです。

観点1「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」については、光村図書では、6年62・63ページ「問いをもとう」のように、児童の課題意識や目的意識を掘り起こし、それを「目標」につなげることで、児童の「問い」を原動力にして、振り返りまでの見通しをもった学習ができるようになっていきます。手引きは、課題や学習活動が選択できるよう工夫されており、「ひろげよう」では、他者との協働的な学びに重点が置かれています。

観点2「学習指導要領との関連」については、光村図書では、6年62・63ページのように、自らの学習を調整しながら学びを進めることができるようになっていきます。「見通しをもとう」「ふりかえろう」などの場面や、対話や助言し合う場面、児童が深く考える場

面を設定することによって、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した配慮がされています。

観点3 (1)「内容の選択」については、光村図書では、6年2～7ページ、目次にあるように、「単元」「小単元」「コラム」「特設単元」で構成し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断・表現を繰り返す中で、着実に資質・能力を身に付けられるようになっていきます。

観点3 (2)「内容の程度」については、東京書籍では、6年6～9ページのように、各巻の巻頭に「言葉の力を集めよう」「国語の学習の進め方」を設け、年間を通して「何を、どのように学ぶか」を見通せるようになっています。教育出版では、4年下4～6ページのように、習得した学習内容を活用し、学びを積み重ねることができるような単元構成になっています。

観点3 (3)「内容の構成」については、東京書籍6年のように、各領域を関連させ、説明文→情報のとびら→書くことのように連続して単元が配置されています。具体的には、152ページ「永遠のごみプラスチック」という説明文の後に、167ページ「情報の信頼性と著作権」という情報活用の単元、その後170ページ「発信しよう、私たちのSDGs」という書くことの単元が配置されています。1単元1領域が徹底され、各単元で身に付けるべき資質・能力が明確になっています。

観点4「学習の仕方への支援」については、東京書籍では、6年16・17ページのように、単元扉の「言葉の力」や身に付ける資質・能力が見開きで提示され、どのような言語活動を通して資質・能力を身に付けるのかが分かりやすく示されています。教育出版4年下47ページから始まる「ウミガメの命をつなぐ」では、49ページの写真のように名古屋市の施設が教材として取り上げられており、子どもたちが身近に感じたり興味をもったりしやすくなっています。光村図書6年25ページでは、学習のねらいを単元名やリード文として扉に示した上で、学習のねらいに関わる部分には「読む」を意味するマークを付けて分かりやすくしています。

観点5「指導上の便宜」については、東京書籍では、6年12・13ページ「デジタルノートの作り方」や、268・269ページ「デジタル資料を活用しよう」のように、一人一台端末に対応した内容になっています。光村図書では、6年36・37ページの二次元コードにアクセスすると著者のインタビューが見られるようになっており、児童の興味・関心を引く内容となっています。

次に、特に調査を要する事項についての報告をさせていただきます。調査専門委員会報告書の国語の2枚目のように報告されています。

事項1「話したり聞いたり書いたりする活動が繰り返し行える内容になっているか」については、東京書籍では、6年293ページのように、「話すこと・聞くこと」の教材について、「話を聞く」「話し合う」「工夫して話す」と系統的に単元が設定され、日常経験に基

づく題材から、これからを生きる子どもたちに考えてほしい題材まで、幅広いテーマがそろえられています。教育出版では、4年下62～66ページ「クラスの『不思議ずかん』を作ろう」のように、子どもにとって身近で必要感のある課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる工夫がされています。光村図書では、6年76～81ページ「デジタル機器と私たち」のように、児童にとって身近な話題を題材として取り上げ、児童の発達段階、学習の習熟度、目的性、必然性を考慮し、多様な言語活動に触れられる工夫がされています。

事項4「言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などに関する学習について系統的に扱われているか」については、東京書籍では、293～296ページ「言葉の力のつながり」のように、「思考に関わる言葉」や「話し合うために必要な言葉」など、内容に合わせて言葉の力を高める工夫がされています。情報については、60・61ページ「情報のとびら」のような単元を2年生以上の学年に3か所設け、「関係」「論理」「整理」「調査」の4つの観点で系統立てています。教育出版では、4年下94～101ページ「『便利』をさがそう」のように、情報と情報の関係性、情報の整理に関して、155ページ「情報のまとめ」と結び付けながら学ぶことができる工夫がされています。光村図書では、6年217～220ページ特設単元「言葉について考えよう」のように、言葉の世界の豊かさを実感するとともに、言葉の自覚的な使い手として育つよう配慮されています。情報については、6年74・75ページのように、情報の扱い方に特化した教材が2年生以上に設定され、単元と密接に関連するような工夫がされています。

なお、国語科の教科用図書につきましては、市民の声として64通のご意見をいただきました。机上の青色のファイルにございますのでご参考にしてください。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、国語の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

(栗生委員)

ちょっと前提の確認なんですが、東京書籍さんと光村さんは6年生で、教育出版さんは4年生ということで、ほぼ同じ6年生で比較せずになぜ、4年生を選ばれてるのか、何か背景っていうか理由がもしあれば教えてください。

(小島指導室長)

ただいまご説明させていただきました調査専門委員会の報告につきましては、各出版社の教科用図書について、特徴のあることを、今日の審議でよりわかりやすく説明していただく部分を選んで、報告がされておりますので、そういったところでこの4年生のものを

説明させていただくと、わかりやすいのではないかと、この教科書については6年生のものを例にとってというような観点でされておりますので、実際のご審議いただく際には、他の教科書が後ろにございますので、同じ単元のものを見比べていただいてですとか、今説明があった内容について、ご指示いただければ隣の事務局のものが、教科書をご用意させていただきますので、ご覧いただければと存じます。

(坪田教育長)

ということもありましたので少しちょっと時間かけて、同学年で今の観点でどうかというお時間を設けたいと思います。

(坪田教育長)

委員の方をお願いします。ページとか、どこのってというのは隣の指導主事に聞いていいですけども、そもそもこの観点に見合うかどうかについては、公開の場で皆さんに聞こえる形でご質問なりしていただくとありがたいと思います。

(坪田教育長)

まだ読み込み中かもしれませんが随時お気づきの点などがありましたら、マイクを使われて、担当に質問していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
あともちろん委員間のご意見ということでも結構でございますので、よろしくお願いいたします。

(中谷委員)

小学校国語の教科書ということで、とても大事な教科かなというふうに思いますしその64通の市民の皆様からの声もこちらで確認していろんなご意見ご関心をお持ちいただいてそれがありがたいことだというふうに思っております。

その際に学校で使いやすいとかですね、学びが深まるかどうか、専門的な知識それが重要だと思うんですけども、この中の資料の一つに、学習指導要領との関連というのが二つの資料がありまして一つ学校の先生方は全学校が評価していただいている項目がありまして、これがそのような点であるかということをやちょっと指導主事の先生に確認もさせていただきたい。どういう学び方ってということを念頭にしたこの評価であるかっていうあたりをやちょっと確認のために、教えていただければと思います。2の学習指導要領との関連についての評点ですね、◎と○の観点についてです。

(犬飼指導主事)

確認ですけども、今のご質問は、学校現場の。

(中谷委員)

はい。資料3-1についてです。

(犬飼指導主事)

◎がこの学習指導要領との関連のところに◎が149とあるところに関してでございますか。

(中谷委員)

はい。それぞれ聞いてますけれど、26、149、86とありまして、ここは、一つ、違いがあるという観点でもあるのでという確認です。

(犬飼指導主事)

私は、調査専門委員会での評価をここでお示しする形になっておりますので、この、学校現場の方々のこの票数というか数字に関しては、細かな分析というのはちょっとこの場でお答えすることはできないんですけども。

(中谷委員)

もちろん学校の先生方がどういう観点で答えられたかっていうことは、もちろんこの表示だけだと思うんで、ご認識はそれぞれ幅はあると思うんですが、こちらのこの記述の表でも同じ要望があるわけで、そのことについても教えていただく方が、この評価の時に、参考になるんじゃないかと。

(犬飼指導主事)

わかりましたすいません。学習指導要領との観点に関わってはですね、日常生活に必要な国語において、その特質を理解し適切に使うことができるようにするですとか、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うですとか、言語感覚を養い国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うというような着眼点になっております。

(中谷委員)

わかりました。その観点に即して、三つの出版社さんについての専門家のご意見と各学校の先生方の評価がされているということですね。

(犬飼指導主事)

はい。

(中谷委員)

わかりました。

(坪田教育長)

他はいかがでしょうか。今のそもそもの資料の説明への質問も引き続きでございますけれども、ご意見についてもたまわりますので、よろしくお願いします。

(中谷委員)

ありがとうございます。3者の出版物を拝見しましたがもちろんのことですが、文科省の検定を通っているということもあり、そして長く教科書出版をされているという会社でもあり、それぞれ工夫がされているというふうに思います。それぞれ非常に力が入ってますし、現指導要領に、先ほど説明していただいたところに合わせての、QRコードであるとか市民の皆様のところもありましたけれども、デジタル化にも対応しているというふうに、或いは対話的な学びについても、随所で考慮されているというふうに思います。

ですので、どのような観点を評価すべきかということなんですが、一つはやはり現場の先生方や、学校関係者の方々が使いやすい、子どもたちに教えるときに、工夫や教えやすさということがあるということでその意味でこの資料3-1と3-2というものが、作成されています。ですので先ほど確認したその学習指導要領との関連等で若干の差が開いているとかですね、争点で3者の中では、ある程度コントラストがあるというところがあり、そのあたりを考慮して、評価していくことになるのかなあということで考えております。具体的にはこちらの全学校の評価でいきますと、教育出版さんが各学校の評価では非常に高く、2位の光村の評価の倍以上ということですので、このあたりは一つの学校の先生方の評価の観点であろうと思います。

一方で専門家の先生方は、それぞれの学年であるとか、全体の系統性であるとかそういったことについても考慮されているので、もちろんこれも考慮される場所ですけれども、そのような評価を踏まえての検討になるのではという、それぞれの教科書の強みがあるのですが実際に使っておられる先生方の観点ということは、一つ大事なところでこの資料を踏まえて検討するのが必要かという、当然ですけれどもそのような観点で。

(坪田教育長)

という中谷委員からのご意見がありましたけれども、他の委員の皆さんいかがでしょうか。

(栗生委員)

ちょっとやっぱり6年生と4年生っていう点で、少し、専門家の方のコメントを見ても非常に比較しづらいなと思ってですね。例えば、資料3-1の国語も、4番の学習の仕方への支援っていうところですね。東書さんと光村さんに対する専門家の方のコメントとしては、単元ごとに非常にわかりやすく、ねらいがまとめられてるっていうふうに見解が書かれているのに対して、教育出版さんのものは名古屋市の施設が扱われているから、子どもにとって良いというこの軸が違う判断されているので、学習の仕方への支援っていう点ですね、ちょっと比較しづらいなというふうに私は理解したんですが、実態として、何か補足情報とかあれば、教えていただきたいなと。

(坪田教育長)

今のいいですか、今のご意見ということで。とりあえず質問ですね。

(栗生委員)

はい。質問です。

(犬飼指導主事)

今、ご質問があったところですが、学習の仕方への支援の着眼点が、項目が二つありまして、一つ目が学びに向かう力を高めるような表記表現がされているかというところ、もう一つが重要語句新出漢字の提示、挿し絵、漢字、図表についての工夫はどうかという2項目がありますので、そういったところから、調査専門委員の評価が記載のようになっていると考えます。以上です。

(栗生委員)

そうすると5番の指導上の便宜というところで新出漢字の観点を専門家の方が評価されているのが東書さんと光村さんの観点非常に近いんですけども、教育出版さんのところがまたちょっとなんか軸が違う形で評価されているんですけども、これは専門家の方によって軸が、軸というか表現が変わっているという理解をすればよろしいでしょうか。

(小島指導室長)

専門委員は複数で構成されておりますけれども、合議の上で、この報告書はさせていただいておりますので、それぞれが担当して、別々のことを書いてるというわけではないんですが、今教科担当指導主事が申し上げましたように、一つの観点について、着眼点が複数ありますので、先ほど比較するということを委員の皆様にご審議いただく時には必要かと思うんですが、それぞれの教科書会社の特徴をお伝えをするというところで、どこを選

んで、この教科書のこのところが優れているということを申し上げるっていうところで、ちょっと目のつけどころが変わってるところもあるかと思いますが、その点をご容赦いただきましてそれぞれの出版社の良いところをご理解いただいたうえでご審議賜ればと存じます。

(坪田教育長)

栗生委員今のご回答でよろしいでしょうか。

(栗生委員)

ちょっと今後という観点でいうとやはり比較するときに同じ軸で見させていただいた方が、もちろんいいところの特徴を専門委員の方も拝見するってのは理解できるんですが、なるべく同じ軸のところで比較した方が審議としては、分析する上で正当かなというふうに思います。これは今後ということで、はい、ありがとうございます。

(坪田教育長)

栗生委員ご意見の方はいかがでしょうか、おまとまりになりましたでしょうか。

(栗生委員)

意見としては私2年前にデジタル教科書の推進委員、GIGAスクール構想の選定させていただいた背景として、やはりタブレットを活用していただきたいと。それは、教員の皆さんにとっても楽になるツールであっていただきたいですし、あとお子様にとっての個別最適化の学習という点でもデジタルネイティブの世代に、授業で聞き漏らしたこととか、例えばお休みした時の個別学習でやはりQRコードを非常に重要視をしています。QRコードリンクの見やすさという観点と、あとQRコード先のそのリンクのわかりやすさ、あと学びやすさっていう点でいくつか見させていただきました。

情報の整理としては、非常に東書さん整理されていてわかりやすいです。光村さんに関してはやはり動画をうまく活用されてらっしゃいまして、やはり、お子様の学習方法は昨今、YouTubeですとか、動画で学ばれる傾向が多いですのでそういう意味では、授業プラスアルファの個別最適化の観点で、動画活用されてらっしゃる光村さんの教科書がいいんじゃないかというちょっと子ども目線というか、ユーザー目線でご意見させていただきます。

(坪田教育長)

山本委員、まだ見られてるかもしれないですし、迷われてるかもしれませんが、ご意見ございますでしょうか。

(山本委員)

私は先ほど栗生委員がおっしゃったように、やっぱり同じ学年、同じ観点で評価をしていただいた方が私としても選択しやすい。私が以前教員だったときも、同じ単元だったり、同じような場所を見て比べるようになっていうふうに上の先生方から言われたりして、見ておりましたのでやっぱりこう散らばってしまうと、判断しにくいっていうのはあるので、今後はその点を考慮していただくといいかなというふうには思います。

それから教科書については、観点かなんかのところに挙がったと思いますが、光村さんのどうやって学んでいくのかなっていう10ページ11ページですかね。これがすごくいいかって、面白いなというふうに思います。やはり学校だと、できる子からできない子まで、たくさんの子どもがいて、何も考えなく、すぐ内容にのめり込んでいく子もいれば、何やるのかなってぼーとしちゃう子もいると思うんですね。それをこういう形で繋がっていくよってというような形で説明してくれるのもいいし、その後も発展みたいなところ、繋げようですかね、昔は発展だったと思うんですけど、繋げようというやわらかい言葉で、できる子にとってはもう少し広げていくような表現がされていて、個々が考える先に進むみたいな部分ではすごくいいなと思いました。以上です。

(坪田教育長)

委員各位から観点に絞った部分がございますけどこういう点では、この教科書がいいという言及があったと思いますが、少し総合的な観点で見ていかなくちゃいけないというのが採択でございますので、ちょっと他の委員の意見を今また聞いた上での、少しご意見、全体としての、評価といいますかそういうものがございましたら、いただきたいのですが、中谷委員いかがでしょう。今、栗生委員、山本委員のご意見も聞いた上での感想なりいただけたら。

(中谷委員)

3者の教科書、国語教科書を見て、やっぱりそれなりにやっぱり特徴があってそれぞれの強みがあるところですけど、光村さんの場合やっぱり見通しとか構造ということを強調されていてそのあたり、すごくいいし、QRコード、私もちょっと見てみましたが確かに、短く上手くまとまっていて、先生方の使い方によっては、上手くできるかなという感じですね。教育出版さんのものもこれもすごくよくできていて、上下巻とね、形態の工夫も一つですし、内容的にも特に情報であるとかそのリテラシーの部分ですね、読み書きということが指導要領で、時期も含めて強調されると思うのでその辺に対しての意識、個性があるなという。話題に上がらなかったんですけど、東京書籍さんは私は結構、実は質が結構高いんじゃないかというふうに思っていて、内容の取り上げられてる文も、

何ていうか新しいもの、オーソドックスなもので、随筆文もあれば、詩もあればという多様性もあって、非常によく準備されているものじゃないかなと思います。

とはいえどれもいいということだと、まとまりませんので、決めるとなると、やはりその現場の先生方のご関心というかお考えも考慮して2者になるのかなという感じでしょうかね。光村さんか教育出版さんかあたりはやっぱ、この先生方のご意見も踏まえて、内容の良さということも考慮すると、ということですね。

(坪田教育長)

なるほど。光村か教育出版というご意見ですか今の全体を通して。

(中谷委員)

先生方のこの評価を踏まえる必要はあるということで考えると、票数が二つが多いのでということです。

(坪田教育長)

多い少ないはありましたけれども、両者どちらかであればというご発言で。

(中谷委員)

そういう意味です。

(坪田教育長)

栗生委員、先ほどこちょっと限定された観点からはこことここが良いというご発言ありましたけれども、またちょっと総合的にちょっとまとめに入っていく段階で、もうどちらのというのが少しさらにまとまりつつありましたらちょっとご意見いただけたらと思います。

(栗生委員)

その総合探究というか、やっぱり対話を中心とした、お子様たちが自ら対話を通じて学びを深めて振り返るという意味での、その授業の進め方が、明確に書かれてるのが、東京書籍さんと光村さんだったので、どちらがいいかなというふうには、その観点で私は考えたんですけど。今の中谷委員のお話を聞いて、教員の皆様が選ばれたものと我々の教育委員からの意見を踏まえてこの2者でどちらかっていう決議をされるってということですか教育長。それはまだ決定ではない。決め方の問題ですが。

(坪田教育長)

2者というのはどちらの。

(粟生委員)

教育出版さんと光村さん。

(坪田教育長)

東京書籍は、先ほど肯定的な意見もございましたけれども。

(粟生委員)

そうですね。

(中谷委員)

東京書籍もいいけれど、教員の皆さんの評価も踏まえると、この2者になるんじゃないかという。

(坪田教育長)

なるほど。そういうことで。

先ほど山本委員から明確に光村図書様の、こうやって学んでいくというようなのが非常に工夫がされているという、ちょっとそこの特徴を挙げたご意見がございまして、特に他者について特に意見はなかったわけでございますけど、3者から今光村が一応採択候補として一応言及があったという形でございますが、ということ踏まえて、山本委員もう一度、ご意見があればお願いします。

(山本委員)

これが印刷造本等に関係あるのかわからず、ちょっとはつきりしないんですけども、やっぱ上下巻になっているっていう意味では、長い距離歩く、このA4教科書ってすごく重たくて、全カラーページになっているので、紙質も非常によくて、素晴らしいことなんですけれども、やはり子どもにとっては非常に重い。本当であれば、半分にしたい。三分の1にしたいっていう気持ちはあると思いますから、そういう意味では、教育出版さんや、東京書籍さんは、上下巻になっているのでそこが造本等のところにあたるのであれば、こちらもいいかなと思います。

(坪田教育長)

今確認いただけてます。高学年も上下巻になってるのは。

(山本委員)

すみません。4年生までですね東京書籍さんは。

(犬飼指導主事)

今の上下巻ですが、東京書籍と光村図書は、5年生6年生が1冊になっておりまして、教育出版は1年生から6年生まで分冊となっております。以上です。

(坪田教育長)

いろんな観点が出てきたと思いますし、それぞれ3者の名前がそれぞれ出てきてる、重なっている部分があるということで、ちょっとなかなか決めかねない部分もあるような気がします。総合的な、もう比較してこちらがというご意見をちょっと絞って、ご発言いただくと、少しまた議論が深まるかなと思うんですが、中谷委員いかがでしょうか。今の各委員からの観点からのご意見も踏まえて。

(中谷委員)

教科専門調査委員会で、3者とも○がついてるというものもありましてこれ印刷の明瞭さ造本ですね。そういう意味ではやっぱりクオリティがそれなりに高くて内容が伝わるっていうものなんです。そのうえでなんです、市で一つを選択するという使命というかそういう必要がありますので、そうするとやはり、今話題に上がっている、光村出版ないし教育出版ということになるのではないのでしょうか。教育出版の場合にはその造本のことと、それと内容的には比較のリテラシーに注目したような作りになっているということが光村の場合はそういったICTとの関連であるとか、読み、教材の多様性っていうことは一覽してわかりやすいのはこちらなのかなという感じもいたします。このような観点は。

(坪田教育長)

観点別には、少し明瞭になったようなご意見をいただきましたが、もうそろそろまとめに入っていかなくちゃいけないので、もちろん慎重な審議が、採択が必要ですから、議論をつくしていただきたいと思います。

(坪田教育長)

栗生委員いかがですか。

(栗生委員)

様々な観点と、教員の皆様と専門委員の皆様の評価とあと私の専門性であるデジタルの観点と大学教諭としても、非常にこのディスカッションを中心とした振り返りから自発的に学びを両立するってところに着目してまして、その観点では、新時代の学び方というこ

とで、光村さんを推薦します。

(坪田教育長)

わかりました。

山本委員は先ほどの分冊の話からすると、お決めていると考えてよろしいですか。ご意見は。

(山本委員)

分冊という点では、教育出版さんがいいと思うんですけど、やっぱりこう、いろんなレベルの子どもたちが学びやすいっていうのは光村さんなのかなって思うんです。

(坪田教育長)

わかりました。わかりました。ご意見ですね。わかりました。ちょっとまとまりつつある。光村出版について3者とも、よろしいんじゃないかというご意見があったと考えて、中谷委員も含めてそう考えてよろしいですか。

(中谷委員)

そうですね迷いますけれども、現場の先生方の声も一定数評価があることと、ちょっと内容的に我々が見て、やはり内容や構成や、そのICTや、対話的な学びや個別最適化という辺りの考慮ってのが可視的に示されているという意味では、今教育長がおっしゃった二つの可能性かなと思っております。

(坪田教育長)

それでは、各皆様に問いたいと思います。令和6年度使用小学校用教科用図書国語については、光村図書を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。国語についてありがとうございます。続いて書写についてお願いいたします。

(犬飼指導主事)

続きまして、書写についてお願いいたします。座って失礼します。

書写の教科用図書は、東京書籍、教育出版、光村図書の3者から発行されています。資料3-1のファイル、資料3-2のファイル、それぞれ、書写のページをお開きください。各学校の集計結果は、ご覧のようになっております。私からは、調査専門委員会の調査研究の結果について、教科用図書をお示ししながら説明させていただきます。

まず、調査研究の6つの観点についてです。

観点1「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」については、3者ともに、二次元コードなどを用いて、自分の課題に合った内容を自分のペースで学ぶことができる工夫がされています。教育出版では、5年36・37ページ「書いて 伝え合おう」で、相手に気持ちが伝わるように、効果的な書き方を考える工夫がされています。光村図書では、6年6ページ下段「学習の進め方」の「考えよう」のように、ねらいについて話し合うことによって、協働的な学びができる工夫がされています。

観点2「学習指導要領との関連」については、3者ともに、書写の学習を通して文字についての原理・原則を主体的に学び、日常生活や他教科の中で生かせる力を身に付ける工夫がされています。教育出版では、3年32ページで原稿用紙の使い方、48・49ページでメモの取り方や発表資料のまとめ方を取り上げ、書写で学習したことを生活や授業の中で生かす工夫がされています。光村図書では、3年24・25ページで手紙や封筒の書き方を取り上げ、日常生活や他教科に生かす工夫がされています。

観点3「(1) 内容の選択」については、3者ともに、日常生活に即した課題を取り入れたり、ICT機器を用いた学習活動を設定したりすることで、学習意欲を高める工夫がされています。光村図書では、6年21～27ページ「書写ブック」で、各学年で学習したことを順に示しており、学習のポイントと日常生活に生かす事柄が一目で分かる工夫がされています。

観点3「(2) 内容の程度」については、3者ともに、学年の発達段階や生活経験に合った内容となっており、身に付けさせたい基礎・基本や、養いたい態度を踏まえつつ、補充・発展的な内容も工夫されています。東京書籍では、3年12・13ページで、硬筆で学習のポイントを考え、「書写のかぎ」を確認しながら毛筆で書いて練習し、硬筆で他の文字に生かすという学習の流れが設定され、ねらいを意識して文字を書くことができる工夫がされています。教育出版では、2年16・17ページで、運筆のポイントに気付かせるための擬態語や、指でなぞる活動を取り入れ、体験的に基礎・基本を身に付けることができる工夫がされています。また、書写で学習した内容を日常生活や他教科、その他の学校生活で生かせるような工夫もされています。

観点3「(3) 内容の構成」について、3者ともに、文字の成り立ちや歴史について紹介し、文字に関する興味・関心を高める工夫がされています。教育出版では、6年18・19ページで、日本の文字として使っている、漢字、平仮名、片仮名の歴史を豊富な写真資料とともに紹介・説明することで、文字に関する興味・関心を高める工夫がされています。

観点4「学習の仕方への支援」については、3者ともに、用具の持ち方や扱い方、毛筆の穂先の動きを示すために写真を多く掲載し、学習するポイントを視覚的につかむことができる工夫がされています。光村図書では、6年6・7ページに示されたイラストやキャラクターの動きを効果的に用いることで、学習への興味・関心を高めるとともに、ポイントを視覚的につかむ工夫がされています。

観点5「指導上の便宜」については、3者ともに、二次元コードなどを用いて、自分の課題に合った内容を自分のペースで学び、書写の力を確実に身に付けることができる工夫がされています。東京書籍では、全ての基本単元の導入に二次元コードが用意されています。動画の内容は、運筆を確認するものや、実際に動かしてポイントを探ったりするものなど、必要に応じてICT機器を活用しながら学習を進めることができるようになっていきます。

続きまして、特に調査を要する事項についての報告をさせていただきます。調査専門委員会報告書書写の2枚目のように報告されています。

事項2「学習準備段階の分かりやすさ」については、東京書籍では、3年6・7ページのように、写真やイラストを示すことで、筆記具の持ち方や姿勢について視覚的に確認し、正しく理解できるようになっています。教育出版では、3年8・9ページのように、写真やイラスト、擬態語で「よい姿勢の合い言葉」を示すことで、用具の置き方や持ち方、姿勢、書き方を視覚的に確認し、正しく理解できるようになっています。光村図書では、3年6・7ページのように、写真やイラストを示した上で、二次元コードからアクセスできる動画を見ることで、右手だけでなく左手の筆記具の持ち方や姿勢について視覚的に確認し、正しく理解できる工夫がされています。

事項4「筆順の理解のしやすさ」については、3者ともに、巻末に該当学年で学習する漢字や筆順を掲載しています。東京書籍では、3年50～52ページのように、画ごとに数字で筆順を示したり、ポイントを色分けしたりすることで、筆順の決まりが理解できる工夫がされています。教育出版では、1年28ページのように色で筆順を示していますが、6年22ページのように、その他の学年は数字で筆順を示しています。光村図書では、2年8・9ページのように、画ごとに数字と矢印、イラストで筆順とポイントを示すことで、筆順のきまりが理解できる工夫がされています。

なお、書写の教科用図書につきましては、市民の声として10通のご意見をいただきました。机上の青色のファイルにございますのでご参考にしてください。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので書写の採択に関する審議に入ります。ご意見ご質問ありましたらお願いいたします。

(坪田教育長)

いかがでしょうか。ちょっとご覧になっている途中でございましてもちょうと、ご意見をいただければと思いますが。また今の説明の質問もありましたらお願いします。

(山本委員)

どの教科書も、自分の勉強していた時や教えていたときと違って、ものすごく、ただ字を書くっていう授業じゃなくなっているんだなっていうことで、先生方の授業もきっと楽しくやられてるんだなと思いました。そしてそれに伴って教科書もすごく変わって、楽しい教科書だと思います。

書き順に関しては、光村さんがすごく一番見やすくって色ではっきりしているので、間違えずにできるかなっていうふうに思いました。東京書籍さんも色が変わっているんですがやっぱり3色になっている部分があって、どちらもすごくいいと思いました。以上です。

(坪田教育長)

国語科指導主事さん、今見た中でちょっと間違いとかあったら、その場で訂正してください。こっちもこうやって書いてあるとか、一部のことが事実だと思う可能性もあるのでよろしくお願いします。

(坪田教育長)

中谷委員そろそろご意見ございますか。

(中谷委員)

いずれも魅力的な教科書で国語と違ってこの分冊とかですねそういう問題がなく、いずれも手に取りやすく、子どもも関心持ちやすいような内容かというふうに思うんですが、筆で文字を書くっていう機会が、学校ぐらいでしかなかなかなくなっている塾に通ってる子は別ですけども、そういう中ではやっぱり書道ってすごく大事で、筆で字を書いてみたいとかですね、筆じゃなくても手で書いてみたいというですね気持ちを高めるようなもののがいいのかなというふうに思います。

そういう意味でいうとやっぱりレイアウトであるとか特に字を書いたときのその完成形が見えるという観点は一つ大事かなというふうに思いますが、その点で言いますと、光村図書さんはよくできているような、大きくこの書き初めの字の形を書いたりですね、されてるところが特徴なのかなと思ったんですが、他の教育出版さんのものとかも魅力的ですし、そうですね。好みもあるのでなかなか一概にというのはこちらも言えないんですが、光村図書さんのいいところが出てるんじゃないかというふうには思いました、はい。以上です。

(山本委員)

3年生で多分一番初めに書写やるんですね。で、結構厳しく教えられた覚えがあるんですけど、教育出版さんの、皆さん同じような言葉が書かれていて、「足はきちんとくつつける」とか、「ぺた」とかあるんですけど、3年生って本当にやんちゃな時期だと思うので、この合言葉みたいな、「こしぴん」とか「足ぺた」とかいう言葉を使うと、なんかすごく喜んで、それをやりそうな、そんな気がします。教え方に関しては、皆さんとても、わかりやすく、あるんですけど、一番なんか、子どもが頑張りそうな、先生が言われた通りにやるんじゃないかなというような気がします。

先生も怒ったりせず、楽しく指導ができるかなというふうに思いました。以上です。

(坪田教育長)

栗生委員いかがでしょうか。そろそろ。

(栗生委員)

教育出版さんの2年生のところでは、この指でなぞったりとか水筆で書いて、そして3年生で筆と墨を持たせるっていう意味で学びのステップが成長に応じて、体系立てて作られてるのが非常にいいなと思いました。先ほどの山本委員と同じ観点でいうと最初に初めて筆をもつお子様もいらっしゃると思うので、3年生の教科書を拝見しますと「こしピン」「足ペタ」「ぐう一つ」いう点と、光村さんも「ぺったん」「ぴん」「ぐう」というふうに表現されてこの正しい姿勢を教えるページも非常にわかりやすいです。

ただ書写の3年生のところでいいなと思ったのは8ページのパソコンやタブレットを使うときも姿勢をちゃんとしようねっていうところは関連付けて、書写するときだけじゃなくてっていうこの姿勢の観点も書かれているっていうのが、非常に評価できるなと思います。今動画は順番に見させていただいてるところでございます。ちょっとお待ちください。

(坪田教育長)

今、動画も含めて見るということではなかなか、以前の採択とは変わってるかもしれませんが、山本委員ほかには大丈夫ですか。先ほどの意見で。はい。

そろそろちょっとまとめに入りたいと思っておりますが、中谷委員から、光村図書がよくできてるというご意見があり、あと、こしぴんとかそういう姿勢とかね、入り方のところで、山本委員、栗生委員それぞれから教育出版。また栗生委員からは光村も同様にというご意見がありましてという状況に今あります。

(坪田教育長)

中谷委員、いかがですか。少し全体を総合的に見た上でのちょっとご意見ということで。

(中谷委員)

いやなかなか一概にはというところですけど、どのよさを取るかということだと思いますが。

その書写という教科の教科感というか、書写をどういうふうにとらえるのか、読み書きも含めた、もちろん含むわけですけども、その毛筆であるとか硬筆であるとかっていうことを中心にするっていう見方があるいはそういったもうちょっと幅広くリテラシー的なことも考えるかということで、光村さんと教育出版さんも少し違いがあるのかなというふうには思いました。そういう意味ではコンピューターのことが出てるのは教育出版さんだけかな。姿勢については少なくとも教育出版さんが触れているというところですかね。

(坪田教育長)

教科担当指導主事さん。今の姿勢の面とコンピューターですか、コンピューターの関係とか、今ちょっと発言ありましたけどそれは事実関係間違いないですか。出てる出てないとかいう感じは。

(犬飼指導主事)

3年生の今ご指摘があったのは、教育出版が8ページ9ページですね。

それで、光村図書が6ページ7ページ。

(中谷委員)

で、光村の方にはそのコンピューターっていうことは書かれてないってことですよね。

(犬飼指導主事)

教育出版の8ページの下ところにパソコン・タブレットっていうのが入ってるのは教育出版ということでございます。

(中谷委員)

そうですね。はい。わかりました。

(栗生委員)

意見です。動画の観点でいうと光村さんの場合は右手の方と左手との方用のそれぞれのQRも用意されてて非常にユニバーサルな対応ができているなと思いました。

(坪田教育長)

それぞれすべていいところがあるということが共有できておりますが、教育出版と光村図書には絞られてきていることは間違いないかなと。

あと現場の意見が大事だっけのは先ほどの教科でありまして、それは全般にきている話ですかね。委員が言われたように、そういう面でも、教育出版次いで光村という現場の意見があるということも踏まえるということでございます。

どういたしましょうか。もうそろそろその他の教科もありますのでそろそろこの書写についてはと思います。いかがでしょう。現場の意見からすると教育出版が◎が一番多くて、ご意見、多分いろんな観点にお示ししましたけど多分、実際教えるときにどう使いやすいかってのがこの書写というのは、特に大事かなというそれはちょっと感じるころ、題材というよりも本当に教えるときに、この筆をとってみたいとか思うかっていうご意見があったので、そういう意味でちょっと甲乙付け難いようなご発言だったと思いますので、あとはQRの、その先のこともあるのかと思いますが、先ほどの姿勢の話とか取り組み方と言いますか、興味をそそるとか、あと現場も考えると、一つはまずは教育出版かなあという感じもしますが、いかがでしょうか。もし完全に割れるようですと、記名投票でございしますが、そこまでということで。例えば、教育出版で、書写はいかがでしょうか。特にご異議ございしますか。中谷委員構いませんか。

(中谷委員)

はい。構いません。

(坪田教育長)

それではですね、書写の教科用図書につきましては、教育出版ということで、ご異議ないということで取り扱わせていただきまいたいというふうに思います。

続きまして、社会についてお願いいたします。

(森指導主事)

社会の教科用図書は、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者から発行されています。資料3-1のファイル、資料3-2のファイル、それぞれ社会のページをお開きください。各学校の集計結果について資料3-2のファイルのご覧の通りです。私からは、調査専門委員会の調査研究の結果について、教科用図書をお示ししながら説明させていただきます。

まず、調査研究の6つの観点についてです。

観点1「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」においては、3者とも一人一人に応じた学習や他者と協働しながら学習を進めることができるように編集されています。東京書籍では、3年生24ページのように、「学習の進め方」で学習問題をつく

り、協働的に問題解決に取り組む方法が示されています。また、4年生54ページにあるように、「まなびのポイント」で学習の見通しをもつことができるように工夫されています。教育出版では、5年生39、40ページのように、「自分で調べて考える」で、一人一人が調べたことを他者と共有し、協働的に学びを進めることができるように工夫されています。

観点2「学習指導要領との関連」においては、3者とも見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする活動を通して、獲得した知識や技能を基に、考えを深められるよう編集されています。東京書籍では、6年生政治・国際編2ページの上の部分にあるイラストのように、働かせる見方・考え方のマークを決め、着眼点がわかりやすいようにしています。教育出版では、6年生5ページのように吹き出しのせりふの中に太字で示すことで着眼点をわかりやすいようにしています。日本文教出版は、6年生7ページにあるように、「空間」「時間」「関係」の3つの見方・考え方のどれを働かせるかといのかが分かるようになっています。

観点3(1)「内容の選択」においては、3者とも基礎的・基本的な知識を習得できるように、大切な言葉をキーワードとして示していたり、今日的な課題に対応した教材が取り上げられたりしています。日本文教出版は、5年生66ページにあるように、「未来につなげる」のページを設け、SDGsに関連付けた学習が進められるように編集されています。

観点3(2)「内容の程度」においては、3者とも児童が興味・関心をもって学習を進められるよう創意工夫がされています。東京書籍は、5年生上118ページにあるように、様々な仕事や社会活動に関わる人々の話を取り上げることで、興味・関心を高めたり、生活と関連付けて考えたりすることができるように編集されています。

観点3(3)「内容の構成」においては、3者とも学習内容が系統立てられ、適切に配列されています。東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習段階に加え、5年生下48ページにあるように、「いかす」段階を設け、これまでの学習を基に、児童が話し合う活動を通して、社会参画の基礎を培うことができるように工夫しています。教育出版は、4年生68ページにあるように、「つなげる」段階を設け、次の学習や自分たちのくらしについて考えられるようにしています。また、3年生66ページにあるように、「もっと知りたい」では、興味・関心に応じて学習することができるように工夫しています。

観点4「学習の仕方への支援」においては、3者とも学習の見通しがもてるようにしたり、主体的に問題解決的な学習を進められるようにしたりできるように工夫されています。東京書籍では、6年生歴史編25ページや34ページにあるように、学習の導入やまとめにおいて二次元コードからアクセスして動画を視聴したり、ワークシートを活用したりすることで、学習計画を立てたり、振り返ったりしやすくなるように工夫されています。教育出版では、5年生113ページにあるように、「次につなげよう」で次時の学習の見通しが持てるように工夫しています。また、6年生46ページにあるようにノートの記述例など、まとめ方の例を掲載し、ノートづくりの参考となるようにしています。

観点5「使用上の便宜」においては、3者とも二次元コードを随所に掲載し、各種デジタル資料へアクセスすることで一人一人が学習を進めやすいように工夫されています。

観点6「印刷・造本等」においては、3者とも誰にでも見やすく、わかりやすいように、ユニバーサルデザインを意識した編集がされています。東京書籍は5・6年生が分冊となっており、児童の持ち運びによる負担が軽減できるようになっています。

次に、特に調査を要する事項についての報告をさせていただきます。資料3-1調査専門委員会報告書の社会の2枚目の内容について、引き続き教科用図書をお示ししながら説明させていただきます。

事項1「地域の実態を生かすことができる内容になっているか」については、3者とも、名古屋市や愛知県の実態を授業に生かすことができる内容になっています。

東京書籍では、6年生の政治分野33ページにおいてなごや子ども市会が取り上げられているなど、名古屋市の実態に対応しています。

事項2「観察や見学、聞き取りなど体験的な調査活動に取り組みやすい内容になっているか」については、3者とも、調査活動の進め方について、写真やイラストを多く活用するなど、具体的で分かりやすい工夫がされています。東京書籍では、5年生上106・107ページのように図や写真を用いたまとめ方の例が、日本文教出版では、3年生76・77ページに調査に用いるカードや見学メモの例が掲載されており、調査活動の見通しがもちやすいようになっています。

事項3「社会的事象について多角的に考えることができる内容になっているか」については、3者とも、様々な立場の人物を紹介したり、それに関わる複数の資料を提示したりして、社会的事象について多角的に考えることができるようになっています。

日本文教出版では、6年生27ページのコラムにおいて、自衛隊をもつことについての賛否両方の考え方に触れており、様々な立場や側面から捉えることができるようになっています。

事項4「グローバル化する国際社会に対応した内容になっているか」については、3者とも、我が国と関係の深い国々の紹介をはじめ、貿易や文化、産業などの関係について触れるとともに、国際社会における我が国が果たす役割について取り上げており、グローバル化する国際社会に対応するよう工夫されています。

日本文教出版では、6年生254ページに関わりの深い国を順に取り上げるだけでなく、スポーツでの交流や、文化の交流についてまとめており、世界とのつながりを様々な捉えることができるようになっています。

なお、社会の教科用図書につきましては、「市民の声」として91通のご意見をいただきました。以上です。

(坪田教育長)

説明がありましたのでご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

(中谷委員)

社会は学習内容も分量がありますし、多岐に渡るので、それぞれの会社の特徴も表れてると思うんですが、例えば、この6年生のところで分冊になって、歴史編と政治・国際編に分けられている東京書籍さんの場合の想定というかその分け方の特徴ということとその分冊にすることの、その持ち運びやすさということが考慮されているかなというふうに、思いました。また内容も、非常に3者さんともカラフルですが、特にこのポイントに目がこのページの中のどこを追っていくかということのをちゃんと考えて、説明されやすくなってるというところあたりが強みになってるのかなというふうに思いました。

(坪田教育長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(栗生委員)

QR動画の観点でいいますと、私東書さんと教育出版さんを中心に見ました。日本文教さん実はちょっと動画がすべてですね、Wordドキュメントとかグーグルドキュメントっていう形で動画はほとんど使われていないっていう。東京書籍さんと教育出版さんを拝見しますとどちらもふんだんに色んな情報がQRでリンクが貼られてるっていう点では同じなんですけれども、やはり見やすさの観点で東京書籍さんが非常にレイアウトが、わかりやすかつ、調べて共同学習を推進するような、調べて、共有して、皆様に発表するという点も非常にいいなと思います。

先ほど専門委員の方のお話の中でこの実際のインタビューが載ってるのは東京書籍さん非常によいと書かれてましたが教育出版さんのほうも実際にお仕事されてらっしゃる方々のインタビューという観点では一緒だなと。

今回、東京書籍さん、教員の方も選ばれてらっしゃるように、分冊になっていたり、イラストふんだんで非常にわかりやすく写真も比較的新しいものが使われてるということでその観点でも東京書籍さんがいいのかなというふうに、ちょっと総合的に拝見して、3教科目なんで慣れてきました。感想です。意見です。

(坪田教育長)

ありがとうございます。ちなみに、他の教科と違って社会の場合はですね、いつも中学校、高校などでは非常に注目を浴びる記述内容において。小学校の場合は、わかりやすくということなのであれなんですけれども、例えば政治経済や歴史の部分そういうところも踏まえた上で、全般について、ご意見いただけたらというふうに思います。

といっても、事前に読まれてると思いますので、ここからの時間は少しスピーディーに
いけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

(坪田教育長)

山本委員いかがでしょうか。目が合いましたのですみません。

(山本委員)

分冊されているっていう部分では、東京書籍さんがとてもいいかなっていうふうには思
います。6年生のところで、歴史すごく楽しいんですけどそのあと政治になるとなかなか
ってところがあると思うんですが、そこで名古屋市を取り上げていただけてるという
ことで、子どもたちはやはり、身近な市長であったりそういうところの興味もあると思い
ますのでその市議会とか本会議場みたいなところ、見てみたいなって思うような気持ちが
湧くのではないかなっていうふうに思いました。以上です。

(坪田教育長)

ありがとうございます。

そろそろ、こちらも採択の結論に近づきたいと思っています。他の委員のご意見も踏ま
えてってとこで、見やすさ等のみならず、記述内容も含めて、中谷委員いかがでしょうか。

(中谷委員)

やっぱり3者ともはもちろん工夫があり、かなりやっぱり資料的な意味でもカラフルに
読みやすく作られていて大事な資料はいくつかの会社で共通してるところもあります。先
ほど教育長言われたように政治的な問題についての情報とかですねそういうことも必要な
んですがやっぱりそこは小学校段階なので最小限というところであってそれを考えるため
の基本的な知識であるとか枠組みっていうことが理解できるような仕組みになってるのか
なという作りになってるのかなというあたりが大事なところなのかなというふうに思いま
した。

教育出版社さんのところで、例えばすごく総合的にこの最後の方で世界についてですね、
各国の調べというのがあるような工夫がある一方で、こちらの東京書籍さんの場合には、
その国の方々に直接インタビューをしていたり食べ物の絵がふんだんに入っていたり、そ
れに絡めて政治的なとかですね、生活の違いなんていうことも含まれていて、子どもが興
味を持ちやすく、先生方がそれを話題にしやすいという国際的な視野の広がりっていうこ
とをかなり意識していく工夫がされてるなというふうにも思いました。原発の事故のこと
とかも、明確に述べられていて情報をどういうふうに扱うかももちろんまだ幅があるとは
思うんですけども、その辺りも評価できることかなというふうに思います。教科書とし

て使いやすいという、文面が評価できると思いました。

(坪田教育長)

ではそろそろ意見を集約し、皆さんお諮りしたいと思います。今もありましたけれども小学校の段階で、いろいろとわかりやすく、仕組みを把握するという一方で、18歳選挙18歳成人ということで、今そういう、かつて8年後の成人だったのが、6年後に成人になる。小学校卒業してからですね、それでまた選挙に行くということ。ということで多分内容の充実は全般的に学習資料も充実し、教科書もそういう方向に図られているということでかなりの工夫がそれぞれ各者されてるということだと思いますし、わかりやすくいろんな仕組みを解説しようという試みがあるのかなあと全般的に感じるところでございます。

その中で今出てきた中で、この分冊の使いやすさのようなご意見も踏まえ、中の取り扱い、また子どもにわかりやすくのさらなる工夫みたいな部分で感じますと、東京書籍さんへの今ご支持が多かったのかなと思います。いかがでしょうか。東京書籍さんで、いかがでございましょうか。

(中谷委員)

申し添えますとその資料の方でも、各学校及び専門の先生方も両方東京書籍さんに票が多いということもありましたので、それも含めて東京書籍さんがいいと思います。

(坪田教育長)

栗生委員いかがでしょうか。

(栗生委員)

東京書籍さんで異議なしです。

名古屋市のなんかちょっと実際にこのアンケートも拝見してると、非常に身近な例が載っていて、親近感が湧くとか逆にそこが興味が湧くとかっていうのが書いてあってユーザーさんの、ご意見としてもいいのかなという気がしました。

(坪田教育長)

わかりました。それでは、ご異議なしと認め、東京書籍さんを選択するという事で取り扱わせていただきます。

続いて、地図について、お願いいたします。

(森指導主事)

地図の教科用図書は、東京書籍、帝国書院の2者から発行されています。資料3-1のファイル、資料3-2のファイルのそれぞれ、地図のページをお開きください。各学校の集計結果は、ご覧の通りとなっております。私からは、調査専門委員会の調査研究の結果について、教科用図書をお示ししながら説明させていただきます。

まず、調査研究の6つの観点についてです。

観点1「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」においては、両者とも指導方法や学習時間の柔軟な設定を行うこと、一人一人に応じた学習課題に取り組む機会を提供すること、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成することに適しています。

帝国書院は、「地図マスターへの道」という難易度が異なる課題が各ページにあり、個に応じた学習に対応できるように工夫されています。22ページ「広く見わたす地図」では、日本各地の建造物、農畜産物、伝統工芸品などをイラストで掲載し、児童が興味・関心をもちやすく、探究的な学習ができるように工夫されています。

観点2「学習指導要領との関連」においては、東京書籍は、15～18ページに、様々な角度から国土を捉えることができる地図が掲載され、地理的理解や、社会との関わりを深めることができるように工夫されています。また、71～82ページに、産業・歴史や伝統文化等のテーマで、それぞれが別の地図にまとめられており、様々な資料から多角的に考えることができるように工夫されています。帝国書院は、60ページに濃尾平野の輪中について、61ページに愛知県の自動車産業について学習できるページが設けられており、4年生での自然災害から人々を守る活動の学習や5年生での工業の盛んな地域の学習に活用することができます。

観点3 (1)「内容の選択」においては、両者とも自然災害や防災、国際理解、歴史・伝統や文化といった幅広い内容の理解が深まるようになっています。

東京書籍は、97～99ページに、日本の自然災害や防災の様子が分かる地図と資料が掲載され、今日的な課題に対応しています。掲載する資料が精選されており、学習すべき内容を的確に捉えることができるように工夫されています。

帝国書院は、99ページから102ページにかけて自然災害に関する地図や資料が豊富に掲載され、主体的に防災マップづくりに取り組む工夫がされています。

観点3 (2)「内容の程度」においては、両者とも絵地図や鳥瞰的な視点からの地図、地域間のつながりを捉える地図など、様々な種類の地図を掲載し、発達段階に応じて地図活用の技能を身に付けられる工夫がされています。

東京書籍は、9～14ページに、方位や地図記号、縮尺といった地図のきまりが、漫画仕立ての構成で分かりやすく解説されており、用語について詳しく説明されています。

観点3 (3)「内容の構成」においては、東京書籍は、1ページの目次の項目を見ると、縮尺別の「広く見る地図」「地方別に見る地図」「くわしく見る地図」に分けて配列されて

いることが分かり、目的に応じて活用できるように工夫されています。

観点4「学習の仕方への支援」においては、どちらも、地名全てに振り仮名が付いており、地図を読むために必要な用語について分かりやすく説明されています。

観点5「指導上の便宜」においては、両者とも縮尺や地名の書き方が児童にとって読み取りやすくなっています。

帝国書院は、4ページに示されているような「二次元コード」が随所に掲載され、デジタルコンテンツにアクセスすることで主体的に学習ができるよう配慮がなされています。

観点6「印刷・造本等」においては、両者とも鮮明で明るく、読みやすいものとなっており、4年間の使用に耐えられるよう、表紙や製本もしっかりされています。

帝国書院は、表紙が丈夫で表面に凸凹があり、滑らず持ちやすい用紙を使用しています。

次に、特に調査を要する事項についての報告をさせていただきます。調査専門委員会報告書の地図の2枚目をご覧ください。

事項1「47都道府県の名称と位置」の学習の扱いでは、両者とも都道府県の名称や位置について確実に、また楽しみながら学ぶことができる工夫がされています。

東京書籍は5・6ページで、帝国書院は128ページで、都道府県の形をものに見立てたり、クイズを出題したりして、都道府県の名称や位置、形に関心をもてるようになっています。帝国書院はさらに22ページから「広く見わたす地図」を地方ごとに掲載し、県庁所在地や主な都市の名称や位置を学習できるようになっています。

事項2「我が国の位置と領土」の学習の扱いでは東京書籍は15ページ、16ページ、帝国書院は31ページ、32ページで、領土、領海、領空、排他的経済水域などの言葉の意味について、図と写真を用いて分かりやすく解説しています。

事項4「代表的な文化遺産」の学習の扱いでは、東京書籍は、81・82ページでそれぞれ日本の世界文化遺産を写真付きで取り上げています。帝国書院は、21ページからの「広く見わたす地図」で代表的な文化遺産をイラストを大きくして示しています。また33ページからの地方ごとの地図でも歴史地名を青色、世界文化遺産を緑色の反転文字で示し、地図上で見付けやすくする工夫がされています。

なお、地図の教科用図書につきましては、市民の声として4通のご意見をいただきました。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたのでご意見ご質問がありましたらお願いいたします。

資料についても非常に奥深く、何時間でも実は議論できる。実は、比較しやすいものではございますが、2者ということもございますし、事前に研究されたいろんなのや、現場のご意見なども踏まえながら、結論をちょっと早めに集約したいというふうに思いますが、もちろん、ご意見ご質問ございましたら、よろしくお願いします。

(粟生委員)

教員の皆さんは、帝国書院を選ばれてらっしゃるっていうことと、あとは直近息子が、今中学生ですけども小学校時代の地図の見方みたいなところで言うと帝国書院さんの方が、名産品別のページですかね。22ページからずっと続いているんですけども、これですね今子ども世代、桃鉄で地図を学ぶっていうふうに言われてますけれども、何かそのUI、ユーザーインターフェースって言ってますけども、その見やすさが桃鉄に非常に似ていて、お子様たちも理解しやすいんじゃないかなというふうに感じました。

で、あと地図マスターというのが帝国書院さんは工夫されてましてですね、地図を面白く学んでいける、ゲーミフィケーション的な観点が入っているという意味では単なる地名を覚える、名産品覚えるじゃなくて、日々の子どもたちの生活とリンクしながら楽しんで学習していただけないような内容になっているかなと思います。

(坪田教育長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(山本委員)

帝国書院さんの、広く見渡す地図というのがやっぱりすごく簡単で、地図帳を開いて、いろいろ探す授業が絶対あると思うんですけど、後ろの方のところでも、特産物とかあるんですが、ここの中から探すとか、地名を探すっていうのが多分、3年から使うんですけど、3年生とかではちょっと難しいと思うんですよ。それが、本当は難しいちゃんとした地図の方で、地名だったり、漢字だったり探さなきゃいけないのかもしれないんですけど、この簡単なものでまず、見つけられるという喜び、子どもたちが味わった上で、もっと難しい本格的な方から、5年生6年生になった時に学ぶというそういう使い分けが、先生ができるんじゃないかなと。子どもはやっぱり見つけたときの喜びっていうのがすごくあって、このたくさんの中から見つけるってすごく不可能に近いんですけど、初めの頃は。でもそれを簡単な地図を使って、県でも川でもいろいろ探せると思うので、使い勝手がいいんじゃないかと思いました。以上です。

(坪田教育長)

ありがとうございます。中谷委員いかがでしょうか。

(中谷委員)

ともに魅力的なんですけども、この帝国書院さんの内容が、両委員言われたように充実しているなということで、特に後半の自分が印象を持ちましたのは、その自然の様子で

あるとか、その世界の国の、集まれ世界の子どもたちですとか、SDGsとかですね、そういう使いやすい、社会が多いかもしれませんけれども、いろんな教科でも使いやすいような工夫がされている。ページ割としても見やすくなっているというのは特にこの帝国書院さんは歴史と信頼のあるというものにたるものかなというふうに考えました。

(坪田教育長)

ありがとうございます。それぞれ工夫がされておりますし、かつての印象ですと、小学校も中も高も、同じような難しい地図を使ってたような印象にあるんですけど、今は本当に小学生にはわかりやすいものになっているのだなというのを改めて感じます。

ではですね、まとまってきたので小学校用教科用図書地図につきましては、帝国書院で、いかがでございましょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

では、ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

続いて、道徳についてお願いいたします。

(中村指導主事)

道徳の教科用図書は、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教育みらいの6者から発行されています。資料3-1のファイル、資料3-2のファイル、それぞれ道徳のページをお開きください。各学校の集計結果はご覧の通りでございます。私からは、調査専門委員会の調査研究の結果について、各者6年生の教科用図書をお示しながら説明させていただきます。

まず、調査研究の6つの観点についてでございます。

観点1「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実については、東京書籍で、6ページの「どんな学びをするのかな？」で、友達と協働的に学びを深めていく過程を示しています。また、4～6年の巻末には「心情円」が添付されており、それを活用して他者との話し合いができるように工夫されています。光村図書では、6ページのように、1つ目の教材に「話し合うためのこつ」が明記され、対話を通した協働的な学習のイメージがしやすくなっています。また、10ページのように、2つ目の教材に「道徳の学び方」が示され、自身が考えを深めたり、話し合いをしたりするときの学び方が具体的に示されています。

観点2「学習指導要領との関連」については、教育出版では、17ページのように、教材

ごとに「考えよう」「深めよう」「つなげよう」等の段階的な発問が設けられており、物事を多面的・多角的に捉えられるように工夫されています。光村図書では、15ページのように教材ごとに「考えよう・話し合おう」「つなげよう」等の発問を設け、主体的に話し合ったり、日常生活と結び付けたりしながら、自己の考えを深める発問が示されています。また、教材が余韻を残した文末になっていることが多く、議論の活性化を促す内容となっています。日本文教出版では、192ページのように、他教科・領域との関連が考慮され、発展的な指導ができるよう工夫されています。

観点3 (1)「内容の選択」についてでございます。光文書院では、目次の右下のところにありますように、各学年で特に考えさせたいこととして三つのテーマを位置付け、その行をご覧くださいますと、例えば89～99ページのように、複数時間構成することで、多角的な視点で考えたり、学びをさらに深めたりすることができるように工夫されています。

観点3 (2)「内容の程度」につきましては、東京書籍では、日常生活での出来事や話題を取り上げ、子どもが自分のこととして考えやすい教材が掲載されています。35ページからの「いじめについて」、67ページからの「いのちについて」、139ページからの「じぶんについて」など、コラムと合わせて指導できるように組み合わせられています。光村図書では、1年間の学びを3つのテーマに分けて教材が配列されています。47ページのような身近な出来事や110ページのような発達段階に即した内容の教材が扱われていることで、自分のこととして考えやすく工夫されています。

観点3 (3)「内容の構成」については、教育出版では、11ページのように、各教材の最後に学習を振り返る自己評価欄が設けられており、言葉やマークで自由に記述ができる工夫がされています。また、巻末に、学期や1年間を振り返られるようなシートが付いています。光村図書では、巻末に1時間ごとの振り返りを記録できる「学びの記録」があり、今は6年生を見ていただいておりますが、低学年では学期ごと、中学年以上は一年間を見通すことができるそういった内容になっております。発達段階に応じて、低・中学年ではシール、高学年では一言感想等を用いて蓄積することで、自分の変化や成長を感じながら、自己評価ができるように工夫されています。日本文教出版では、別冊「道徳ノート」を活用することによって、毎時間同じ構成で学習の記録を残すことができ、児童が振り返り、自己評価をし、成長を実感できるように配慮されています。また、114、115ページのような、教材に関連したコラム「心のベンチ」が掲載され、道徳的価値について深く考えることができるよう工夫されています。

観点4「学習の仕方への支援」につきましては、光村図書では、10ページのような「道徳の学び方」が示され、「考えたいことに気づく」「よりよい生き方について考える」等の学びのステップが、イラストを盛り込んで分かりやすく掲載されており、教材への向き合い方が捉えられるように工夫されています。学研教育みらいでは、12ページのように教材への関心をもたせる投げ掛けとして、教材の中の印象的な言葉を「キーフレーズ」とし

てタイトルの下に記載し、児童が毎時間興味をもって考えることができるように工夫されております。

観点5「指導上の便宜」についてです。東京書籍では、9ページのように二次元コードでデジタル資料が用意されておりまして、幅広い資料を活用し、学びを広げることができます。教材によって、動画の閲覧や思考ツール、紙芝居やデジタルノート等を活用できるようになっております。教育出版では、6ページで紹介しているように、「まなびリンク」の二次元コードにより、専門用語や参考図書など、学習に役立つ情報を見ることができます。発達段階に応じて、グラフを使った資料や豊富な写真・イラストにより、教材の理解を助けるような工夫がされております。日本文教出版では、4ページの二次元コードから、話合いや役割演技の仕方、学習のまとめ方について動画で見ることができ、学習の進め方を確認しながら取り組めるよう工夫されております。

観点6「印刷・造本等」につきましては、光村図書は、他者と比べて小さなサイズとなっておりますが、文字や挿絵を大きく表示する工夫がされています。また、ユニバーサルデザインに配慮した書体や色づかいとなっております。

次に、特に調査を要する事項についての報告をさせていただきます。資料3-1調査専門委員会報告書の道徳3枚目、4枚目の中身となります。

事項1「児童の発達段階を考慮した題材が扱われているか」につきましては、6者とも、全ての内容項目を網羅した内容となっていて、発達段階を考慮した配列となっています。光村図書では、3ページの上の部分に示してあるように、内容項目の関連を考慮し、指導の順序を意識した題材の配列をしています。1年間の学びを通して、児童が着実に道徳性を養える題材が構成され、児童の発達段階を考慮した指導ができるよう工夫されております。

事項2「道徳的価値を感じることができる題材が扱われているか」については、教育出版では、道徳的価値を感じることができるように、多種多様な教材が扱われております。特に、71ページのような写真から学ぶ教材や82ページのような体験的な学習を促す教材、84ページのような漫画形式の教材など、従来の読み物教材に捉われない様々な形式によって、各教材が扱われております。

事項3「自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるように工夫されているか」については、6者とも年間を通して自分自身を振り返ることができるように工夫されております。東京書籍では、9ページにありますように二次元コードによって、デジタルノートのデータをダウンロードすることができ、児童が考えたことを、データ上に書き留める、そして蓄積することができるように工夫されております。

事項4「「いじめ問題・生命の尊さ」が適切に扱われているか」につきましては、6者ともいじめ問題に関わるユニット教材やコラム、特設ページを設定し重点的に取り扱っています。学研教育みらいでは、「いのちの教育」を全学年の最重点テーマと位置付け、5

ページの目次をご覧くださいと、93～105ページのように、複数の内容項目の教材とコラムを連続させることで、いのちについて多面的・多角的に考えられるように配慮されております。

なお、道德の教科用図書につきましては、「市民の声」としてご意見を70通いただいております。以上でございます。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので道德に関しまして、ご質問、ご意見お願いいたします。

(中谷委員)

6者、ご説明ありがとうございました。道德はこちらの検定の図書の種類が多いということで、この日本文教出版さんのみこの道德ノートがついていますが、そういう形式のところは他の会社ではないということでしょうか。

副本になっているとか、教材があるとそういったものはないでしょうか。

(中村指導主事)

別冊のノートという形で造本されておりますのは、こちらの日本文教出版のみとなっております。

(中谷委員)

で、こちらでちょっとノートというふうになっているのは読みやすいかなと思う反面、デジタルで見ることが、よりユーザビリティが高いのかと思うんですが、そういった資料は、こちらから飛べたりするのでしょうか。同じものがあるなら紙であるっていうのはどうなのか。別の目的があるのかなっていうふうに思ったんですが。

(中村指導主事)

別のコンテンツは用意されているというふうに聞いておりますが、特にそのデータがそこに添付されているということは調査員の方から聞いておりません。

(栗生委員)

すいませんちょっと重複するかもしれないんですけど質問です。他教科3者とか4者ですが、なぜ道德は6者から選定するのでしょうか。

(坪田教育長)

6者からの出版があるからで、検定も受かっているからということなんですけど、補足

があればお願いいたします。

(小島指導室長)

今教育長申し上げたとおりでございます。何者が検定を通ったかということです。

(栗生委員)

ありがとうございます。

そもそも論、文科省の検定を通った者数が、教科によって異なるということなんですね。

(坪田教育長)

そもそも、教科書をその教科で発行したいっていうその意欲がまず。で、検定で。もちろん、ほとんど検定をお通りになるんですけども。ということの結果であるということで、もともと出版社が、教科書を作りたいというところが教科によって違うということですね。

(栗生委員)

理解しました。それだけ道徳は出版希望者が多いものということですね。

(坪田教育長)

少しご覧いただきながらまたご意見をおまとめいただきたいと思いますと思いますが、少しご参考までの話をいたしますと、道徳は教科化されてまだ、日が浅い一番新しい教科でございますので、こういう検定教科書という形ができたのも、近年であると。その前に私たちの道徳という国の方で、一つの教科書を作っていた時ありました。その時は教科化前ですけれども、教科化にともなって検定教科書制度ができ、各者が道徳の教科書を精力的に作られているという状況にあるということでございます。

(中谷委員)

併せて確認ですが、市民の方からもたくさん声をいただき70通ですかね、いただいているということでありがたいことだと思うんですが、その中で道徳の教科化についてやっぱりご意見がありますが、教科とはいえ他教科とは違った評点を聞けるというものではなく、記述するというものだということですがそのあたりちょっと道徳の指導主事の先生に確認をさせていただきます。この教材がどういうふうな形で使われてるのか、特別な教科というのはどういう意味かっていうのはちょっと確認した方が議論ができるかと思います。

(坪田教育長)

大事な質問ですね。

参考までの話だと思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

(中村指導主事)

まず評価に関しましては、数値での評価はふさわしくないということで、ある一定の単位の期間をとって、個人の成長の部分を文章表記をすることが望ましいという形で示されております。

ですので各学校各学級におきましては、小学一年生は34時間、その他の学年は35時間という年間の授業時数の中で、一人一人の成長をとらえて、個人の成長をとらえての評価をしていくという形になっております。

(中谷委員)

ありがとうございました。小学校1年生及び2年生以上も30時間あまりをですね使われる大事な教科ということですが、特別な教科という意味はそういう記述による発達をとらえた評価をするという意味ですね。はい、ありがとうございます。

(坪田教育長)

山本委員いかがでしょうか。

(山本委員)

どのぐらいそのノートみたいなのを活用をしているのかお聞きしたいんです。実際使われているのか。プリントを使って、そんなことはわからないんですかね。

(坪田教育長)

ただいまのご質問にご回答できますでしょうか。

(中村指導主事)

一般的なということかと思うんですが、いわゆる普通の大学ノートというような形に、各時間のものを蓄積していくという形で、取り組んでみえる授業もありますし、各授業ごとに、別のプリントを用意して、そのプリントを使ってという形もございますし、ここ最近で言うとタブレット端末を活用して、ロイロノート等を使って、やりとりをしたものを蓄積して自分の意見を残していくというそういう授業形態が多くなっているかなと把握しております。

(坪田教育長)

6者ございますのでなかなかところはございますと思いますが、一つですね私の観点

のポイント言っておきますと先ほど説明がございましたいじめ問題については各者の載っているんですけども、ちょっといろいろ違います。もちろん題材は違うんですけどそれを踏まえてどうする、どう考えようかっていうところの記述はそれぞれでございましたり、ちょっと言葉の使い方も、いろいろ、比較してみるとあるということもありまして、あと法律もちゃんとあるかどうかとか児童向けに条約などに触れているとか様々な実は観点がある。どれがいいとかそういうわけではないですが。そういうことで実は、いじめというのもこの教科化したときの一つのポイントはいじめの予防のために道德教育を活かせないかということもあったということをご参考までに情報共有しておきます。

(小島指導室長)

すいません。一点ここでお詫びと訂正をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(坪田教育長)

はい、どうぞ。

(小島指導室長)

今教科担当の説明の中で、学研教育みらいの教科書についてというような、そういった説明をさせていただきました。

冒頭のところでも、教科用図書、6者あるというところで学研教育みらいというご紹介の仕方をさせていただいたんですが、社名が変更になっておりまして、正しくは、株式会社Gakkenでございます。資料の方はそのように表記されていたり、今お手元にある、教科用図書についても学研という表記がしてありますが説明の中で誤りがありましたので、教育委員の皆様及び関係の皆様にお詫びするとともに、訂正をさせていただきたいと思えます。申し訳ございませんでした。

(中谷委員)

今のは学研さんの社名の変更のところで学研のみんなの道德のところではじめに触れていたところがありますけれども、「心をきたえ自分らしくかがやこう」という見出しところで全体の構造がみやすいなというところがありますが、各者教育長が言われたように観点があるわけですけど、特にいじめ関してはこの東京書籍さんの例えば35ページの扉になってるいじめについて考えようっていうあたりは、明確にそのことについて触れているんだなというところがありました。またちょっと違った観点ですけども、光村図書さんの場合にはこの6ページの初めの段階ですね、全体がまあ、対話的にいろんな議論を道徳的な問題についてするっていう前提で、みんなで気持ちよく話し合うためのコツとい

う言葉を明記されていて、こういったことは、なかなか当たり前のように各授業で行われるとは思いますが、否定をせずにこういうふうなことで話していこうという簡素なものですけれどもこういったことが書かれてることは、道徳を学ぶ上でもわかりやすい導入なのかなというふうに、思いました。ですのでそのあたりは、この光村図書さん評価できる部分かなと思いました。一方で東京書籍さんテーマ中心というのも見やすいなと思いました。

(坪田教育長)

ということで、少し社名も出していただいたご意見がございましたが、栗生委員いかがでしょうか。

(栗生委員)

大変非常に観点多くて、難しいなと思ったんですけれどもちょっと今回、教員の方々の、票から上位2位というふうに申し上げていいのかちょっとわかりませんが、教育出版さんと光村さんも、教科書の比較させていただきました。QRの観点でいうと、光村さんの場合は、やはりさっき他教科でも申し上げたように動画がこんなに使われていたりですとか、やはりそのコラムや例題の作者ですとかその登場人物に興味を持たしながら考えさせるみたいな作りこみが良いかなと思います。かつその発達段階に応じて、学びと自分の感想を記載しておけるっていう点では、光村さん、教育出版さん、両者とも巻末についてるんですけれども、低学年はシールで、高学年は自分でコメントを書くっていったところで、光村さん非常に工夫されていていいなと感じました。以上です。

(坪田教育長)

ありがとうございます。

(栗生委員)

QRの観点でいうと感想の中にもいくつか市民の方の感想の中にあっただんですが、ちょっと教育出版さんの方は、単純にこの教科書の内容をそのままPDFで貼っているだけっていうふうになってましてですね。市民の方の意見の中からも、何かそのまま重複した内容が紙面と同じ内容がQRでみえるだけになってるんじゃないかっていうご指摘もあってですね、もう少しQR対応というのは、もっとできたのかなと感じられましたね。

(坪田教育長)

道徳も様々な観点で6者をみていくとなかなか時間もかかる部分がございますが、今絞られた意見が中谷委員、栗生委員からちょっと限られた観点かもしれませんがいただいたところではございます。

ということも踏まえて、山本委員ご意見をお願いいたします。

(山本委員)

栗生委員がおっしゃるように一番後ろのページに書き残すところがあるっていうのが、いいなと思いました。両教科書ともにシールとか学年によって難易度を変えてるっていうところもいいですし、短いっていうのがいいかなと。あまり長く書くっていう、国語ではない、やっぱり心の勉強だっていうことで、簡潔に書き残しそして一覧で見えるっていうのは、光村さんが良いかなっていうふうに感じました。そうすると、自分の変化、先生も評価等に使えると思うんですが、自分の変化っていうのも見つめ直すことができるかなと感じます。

(坪田教育長)

じゃあ、あと一つ二つちょっとご意見いただいたらもうまとめに入りたいと思いますがいかがですか。中谷委員、なにかございますか。他の観点で。

(中谷委員)

出版社さんが多いということはそれだけ各者の個性とか工夫もいろいろで、先ほどの別冊にしているノートというものや、例えば東京書籍さんのこの最後の、先ほどの観点でいただいた考えるためのツールというものであるとかそういった工夫はそれぞれあると思うんですけど、もちろんそういう、副教本的というか、そういうワーク的な工夫も必要ですけど、あくまでその道徳の本質というか、教科の本質について考えやすい先生方が使いやすいっていうその教材の質というところが一番大事なのかなというふうに思いまして、その辺りでは今話題に上がった出版社さんは、よく、練り上げておられるところかなあというところですよ。光村さんであるとかかと思います。

(坪田教育長)

それではよろしいですか。よろしいですか。

どれも素晴らしいご意見があったような気がするし、6者全部がね、本当に精力的に道徳というテーマに取り組まれていることが表れてるな、工夫もあるなと感じたところですけども、現場のご意見と、今、それぞれの特徴をお示しとか、各委員からのご発言を踏まえると、光村図書さんという感じがしますがいかがですか。

中谷委員ちょっと悩むところございますか。

(中谷委員)

なんていうか、いわゆる大手さんではあるわけですけど、やっぱり内容を吟味して精

査して、公平に見てっていうところで、皆さんのご意見も踏まえてこの出版社さんのこの教材は、評価できるのではないかというふうに考えました。

(坪田教育長)

ご意見ありがとうございます。また、そういうご発言も踏まえますと、それでは令和6年度使用小学校教科用図書道徳については、光村図書さんを採用してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認めそのように取り扱わせていただきます。

これにて、日程第1「令和6年度使用教科用図書の採択及び採択審議について」を終了いたします。残りの種目につきましては、7月28日に予定しております臨時会及び8月2日予定しております定例会にて採択を行いたいと思います。

また傍聴の方も含め、ここは皆様に再度お願いいたします。令和6年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導により、採択結果を8月31日まで非公開となっております。

また採択等に係る会議録資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますのでその旨、ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますようお願いいたします。それではこれより日程第2第3に移ります。これ以降の議事は非公開となりますので、傍聴人の方々はご退席をお願いできればと思います。

日程第2から日程第3は非公開とされたため、名古屋市教育委員会会議規則第12条の規定により、会議録は別途作成。

午後5時34分終了